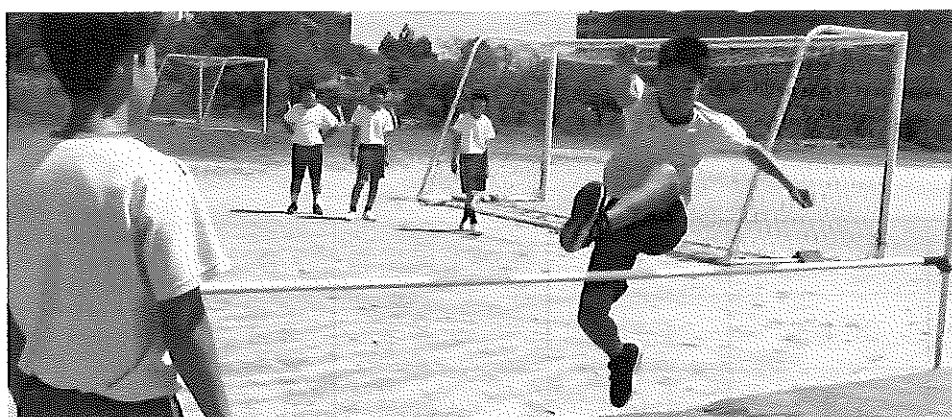


令和5年度 第73次印旛地区教育研究集会  
保健体育中学校 研究発表

研究主題

ICTを用いて、主体的で対話的な  
学習活動を目指した授業のあり方

～陸上競技を視覚的に捉え、  
技能向上に向けた取り組み～



令和5年度 第73次印旛地区教育研究集会  
保健体育科 提案資料

成田市立玉造中学校 保健体育科

1 研究主題

ICTを用いて、主体的で対話的な学習活動を目指した授業のあり方  
～陸上競技を視覚的に捉え、技能向上に向けた取り組み～

2 主題設定の理由

新学習指導要領が掲げている、主体的で対話的な学習活動を目指すと同時に、今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されている。未来が予測困難な時代に、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力の育成のために、「思考力・判断力・表現力」の育成を図るよう提言されている。その中で、本校の学校教育目標である『徳・知・体の調和が取れ、未来を切り拓く力をもった生徒の育成』のなかでも、

(2) わかる授業の実践

①ICT機器の有効活用による指導の工夫

②生徒の思考を引き出し、表現力を高める指導方法の工夫改善  
に、力を入れて指導してきました。

成田市内は生徒一人ひとりに iPad が配布されているため、ICT を活用しながら、さらには、コロナ禍において密にならずに上記で示した内容を達成することができないかと考え、本主題を設定した。新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行後においては、通常通りの授業を行うなかで、iPad を活用する上で運動量を確保するために、ペアでの活動を取り入れた。陸上競技においては、本校の課題である走力（50 m 走、シャトルラン）において、全国平均から大きく下回っていること、また走ることへの興味・関心が薄いことや苦手意識を持っている生徒が多いことから陸上競技に焦点をおいて取り組んでいきたい。

今回は、ロイロノートというアプリを活用し、研究に取り組みました。生徒たちは、他教科でもロイロノートを活用しているので、抵抗なく取り組めることや、操作方法には慣れているため、運動時間をある程度確保しつつ取り組めることができること、また、競技をそのときに見ていなくても、保存された動画に対してアドバイスができることが大きな利点と言える。

以上のことを踏まえ、下記の研究仮説を立て、研究に取り組みました。

<生徒の実態>

	1 学年	2 学年	3 学年	特別支援学級	合 計
男 子	30名	31名	47名	9名	117名
女 子	36名	39名	46名	2名	123名
合 計	66名	70名	93名	11名	240名
クラス数	2クラス	3クラス	3クラス	3クラス	11クラス

### 3 研究仮説

#### 仮説（1）

ICTを活用し、視覚的に自分の競技を捉えることによって、仲間からのアドバイスの実感を伴って技能練習に取り組めるであろう。

- 学習カードを活用し、基礎基本的な技能ポイントを理解させる。
- 自分の競技を視覚的に捉えることによって、課題を明確にし、技能向上に役立てることができるようにする。
- ペア、もしくは少人数で交代で取り組むことによって、運動時間を確保し、技能向上を図る。

#### 仮説（2）

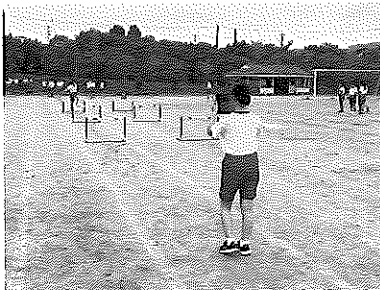
ロイロノートを活用し、動画を活用していつでもアドバイスを送ることができ、次時の授業に役立てることができるであろう。

- 競技を見ていなくても、動画を見ていつでもアドバイスを送ることができるため、仲間の競技に全員が関わることができるようにする。
- 基礎基本的な技能の習得を目指し、自身の競技力の向上を実感できるようにする。

### 4 具体的な取り組み

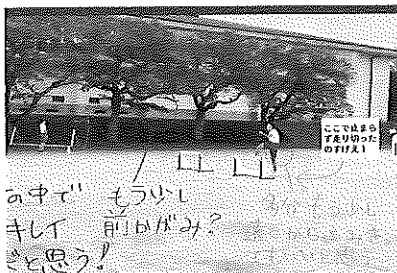
#### 仮説（1）

- ・視覚的に、確認し合いたい技能ポイントをカードに記載し、動画を活用しながらそのポイントを指摘し合えるようにした。
- ・運動時間の確保のために、ペア、もしくは少人数で交代で取り組み、技能向上を目指した。



#### 仮説（2）

- ・ペア同士、少人数同士だけでなく、動画をロイロノートに提出することによって、誰でも自分の競技や部分練習を見てもらえるようにし、アドバイスを送る、伝えることができるように工夫した。
- ・部分練習等でも、自身の競技の様子を自身で確認し、しかもアドバイスをもらいながら次に生かすことができるため、小さな目標達成の積み重ねを通して競技力の向上の実感することができるようにすることと共に、運動への意欲向上にも役立てた。



## 5 研究のまとめ

### 仮説 (1)

ICT を活用し、視覚的に自分の競技を捉えることによって、仲間からのアドバイスの実感を伴って技能練習に取り組めるであろう。

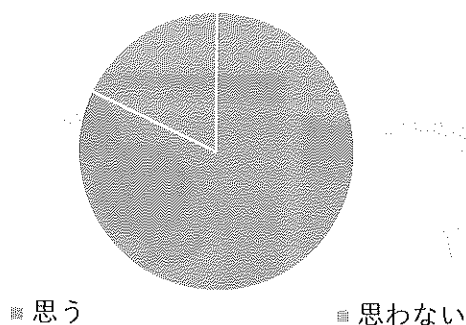
#### 【結果】

- ・自分自身の競技を視覚的に捉えることによって、自分のイメージ通りだったりそうでなかったり、うまくいっている部分とそうでない部分が明確に理解できたことによって、練習に意欲的に取り組む姿勢が見られるようになった。
- ・友達や教師からのアドバイスを、動画を活用しながら行うことで、自身の課題を明確にすることができ、小さな目標をたてやすくなったことで、意欲的に取り組むことができた。

#### 【考察】

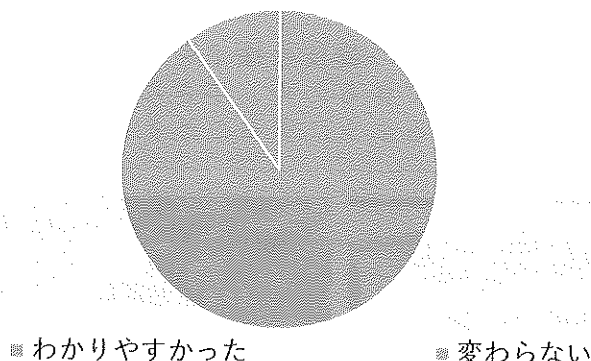
- ・動画を活用することで、新しい発見や、思っていたよりもできていた、できるようになってきた達成感と嬉しさや喜びが、技能向上だけでなく、意欲向上にも繋げることができたことは数値にも表れている。また、見ている側にとっても、運動が苦手であっても学習カードを活用すればアドバイスを送ることができるため、それができるようになるためにはどうしたらよいかなどの思考する時間も同時に生まれ、ペア、少人数同士での会話が増え、意欲向上に繋がったと考えられる。

動画を活用したことで  
技能が向上したと思うか



思う 82% 思わない 18%

動画を使ったアドバイスは、わかりやすかったか



わかりやすかった 90% 変わらない 10%

## 仮説（２）

ロイロノートを活用し、動画を活用していつでもアドバイスを送ることができ、次時の授業に役立てることができるであろう。

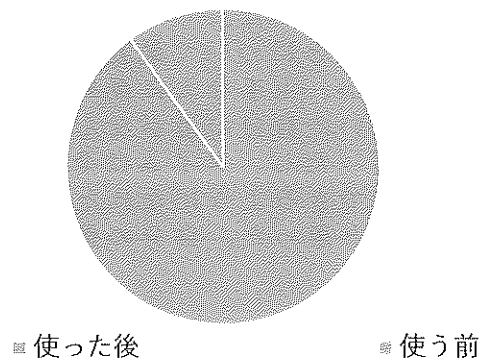
### 【結果】

- ・ ペア同士、少人数同士だけでなく、動画を共有することによって、誰でもアドバイスを送ることができ、新しい視点でのアドバイスも生まれ、技能向上に役立てることができた。また、教師も提出された動画からもアドバイスを送ることができるため、見ることができなかった生徒へのアドバイスを送ることができた。
- ・ いろんなアドバイスをもとに、小さな目標設定を行い、その達成に向けて頑張ることができた。また、動画によって自分でそれを確認することができるため、技能向上に繋げることができた。

### 【考察】

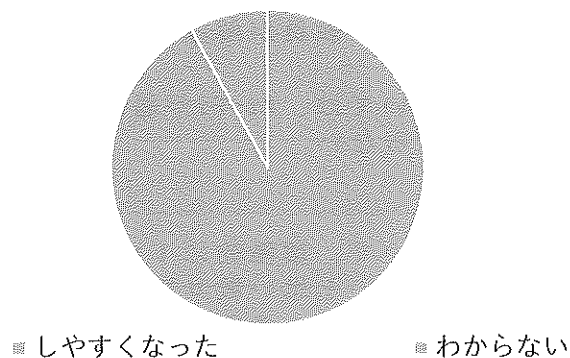
- ・ 最初は、運動が苦手な生徒は動画を観られることも抵抗があったようだが、次第に少しずつでもできるようになってきたことや、褒められることを通して抵抗感も薄れていったため、効果的であったと言える。
- ・ 仮説（１）でも述べたように、決まったアドバイスだけでなく、新しい視点でのアドバイスをもらえるため、それが小さな目標設定へ繋げることができた。

動画を使う前と使った後では、どちらの方がわかりやすいか



使った後 91% 使う前 9%

学習カードや動画を使うことで、アドバイスをしやすくなったか



しやすくなった 92% わからない 8%

## 6 成果と課題

### <成果>

- ・視覚的に自身の競技を捉えることができるだけでなく、友達からのアドバイスや、教師からのアドバイスに実感を伴うことができるようになったことで、『わかった』『これのことか』『どうすれば克服できそうか』などの思考に繋げることができた。
- ・ペアで取り組んだことによって、運動量もある程度確保できたこと、前授業や、回数をこなすことによって、できるようになったことや課題を比較することができ、生徒の学習への意欲に繋げることができた。
- ・学習カードに記載されている技能ポイントとも比較することができるため、運動技能が低い生徒にとっても、アドバイスしやすい環境ができたことで、ペアを考慮する必要がなくなった。
- ・ペアだけでなく、全員が動画をみてアドバイスすることができるため、新しい視点とアドバイスをもとに運動に取り組むことができた。
- ・運動技能に関しては、著しく向上した訳ではないが、思考や、意欲的に運動に取り組む生徒は増えた。

### 《生徒の声》

- ・自分の競技をしている姿を見ることができて、先生や友達のアドバイスがよくわかった。
- ・まだまだだし、最初の頃がよくなかったのもあるけど、自分の競技の姿が少しずつつかっよくなっていったのは嬉しかった。
- ・たくさんの人に見られることについて最初は抵抗があったが、アドバイスもそうだけど、『よくなってきたね』とか、上手な人に褒められたのは嬉しかった。
- ・想像よりもうまくできていた自分の姿がなんか嬉しかった。
- ・ハードル走は怖くて嫌だったし、タイムは全然遅いけど、できるようになってきて自分のリズムで5台跳ぶことができるようになったのはとてもよかった。
- ・フォームって大事なんだと思った。自分の想像と違った。
- ・部分練習が楽しかった。

### <課題>

- ・動画を撮影する際に、撮れていなかった、充電が切れたなどの問題も発生した。
- ・気温が高いなかでの活動になると、高温でタブレットが作動しないこともあった。
- ・競技者が撮って欲しいアングルと違ったり、動画が移動しながらでブレてしまったりして、撮り直しも少なくなかった。
- ・タブレットを外で活用することで、落として破損してしまうこともあった。
- ・生徒間で通信をするために、教員が解除をするので、授業内でしか、行うことができなかった。
- ・グラウンドでの授業においては、Wi-Fiが届かないので、振り返りの時間はWi-Fiが届く位置まで移動しなければならない。

## 7 おわりに

保健体育科の授業において、積極的にICT機器を活用し、新しい試みを通して子どもたちの力を伸ばしていきたいと思い取り組んだ。特に、思考力・判断力・表現力を高めていくための手立てとして、自分の課題解決のために、本校の課題である陸上競技に焦点を当て、解決方法を考え、助けてもらいながら適切な方法を選択し、それらを伝え合えることができるようにすることを目的とした。自分が想像していたよりも、視覚的に競技を捉え、課題解決に向けて生徒たちは意欲的に取り組むことができるとともに、技能が向上したことを実感を伴って授業を展開することができたことは大きな成果と言える。しかし、全員ではなく、スモールステップを踏んで、技能向上に向けて取り組むための場の設定も必要だと感じた。全体で指導・支援・学びあいをしつつも、個に応じた場の設定を提供し、さらには、似た課題や同じ課題をもった生徒同士での学びあいが実践されるようにしていかなければならないと感じた。